

事務事業名	舗装修繕事業	事業期間	2014 ~ 2022 年度	係内番号	02
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	連絡先	506

政策番号	05	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針									
		基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針									
		実行計画	03	道路河川等整備計画	0302	中・大規模道路修繕事業									
予 算 事 業 名	舗装修繕事業					会計コード	01	款	08	項	02	目	03	事業	02
事務事業の概要	主要幹線市道において、道路及び付属物施設の健全性について調査・点検および評価を行ない、数値化することによって施設の劣化状況を把握する。このデータと平成25年に実施した市道路面性状調査の結果により策定した舗装修繕計画に基づき修繕工事を実施する。また、次期計画をにらみ、緊急性の高い主要幹線について引き続き点検を行う。														
現状と背景	主要市道の総延長が長く、これに付属する施設も広範囲に点在している。また、これら施設に関わる台帳等の帳票も整備されていなかったため、客観的な調査や点検ができていなかったのが現状である。このため、修繕箇所も計画的ではなく劣化・損傷した物から順次修繕していくといった事後対応を実施していた。														
目的	受益者	すべての市道利用者													
	対象	1、2級市道並びにその他幹線市道および道路付属施設													
	意図	道路および付属物施設の健全性について調査・点検および評価を行なうことと台帳等の帳票整備を進めることにより、修繕計画を策定し、優先順位を明確にできる。また、修繕計画に基づき修繕工事を実施することにより、長期に渡る財政の平準化を図ることができる。													
手段・方法	平成25年度に実施した路面性状調査の結果に基づき、優先順位の高い路線について修繕工法の検討を行ない、修繕工事を実施していく。また、道路付属施設については、近接目視による点検を行ない、損傷の度合いを数値化し損傷および劣化状況の把握する。また、台帳等の帳票の作成とGISを利用したデータベースの構築を行なう。														
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
	1	舗装修繕	舗装修繕済延長	km	年間の舗装修繕延長	6.5									
	変更履歴	2022年の最終目標を6.5Kmとし、各年度までの累計を管理する。													
成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値										
1	計画期間内舗装修繕率	舗装修繕率	%	修繕済延長/計画延長×100	100										
	変更履歴														

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	38,529,000	109,000,000				
		国庫支出金	円	17,595,000	54,500,000				
		県支出金	円						
		地方債	円	15,800,000	49,000,000				
	その他特定財源	円							
	一般財源	円	5,134,000	5,500,000					
	活動指標	舗装修繕済延長	目標	km	4.1	4.7			
			実績	km	3.7				
		達成率	%	90.24	-	-	-	-	
		-	目標	-					
			実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-	
	成果指標	舗装修繕率	目標	%	63	72			
			実績	%	60				
達成率		%	95.24	-	-	-	-		
-		目標	-						
		実績	-						
達成率		%	-	-	-	-	-		
備 考									

事務事業名	舗装修繕事業		事業期間	2014	～	2022	年度	係内番号	02
担当部署	都市建設部	建設課	建設係				連絡先	506	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 (CHICK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果変異動指要標因分～析	H30年度については、舗装修繕事業に対する国の方針により、交付金の交付率が低く、この交付率に事業量を合せたことから、計画延長の0.84kmに対し、0.38kmの施工延長であり、目標を達成することができなかった。				
	総合評価	本路線は玉川、泉野地区と市街地を結ぶ主要幹線であり、諏訪中央病院が隣接した道路になる。本路線の舗装修繕工事により、利用者の利便性、安全性が確保でき、特に緊急車両の走行性の向上が図れた。				
	課題	来年度以降について、国の方針が変わり交付率が上がるとは考えにくい、今後、舗装修繕事業の予算をどのように確保して行くかが課題である。				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌年度方向性	成果 コスト	現状維持 現状維持			
	改革やコストの方向性の内容	コストについては現状維持で進めたい事業である。今年度、舗装修繕計画の第1期工事(H27～R元)の5年間で終了する。来年度からの第2期工事について、予定個所の再検討を行う。また、交付金に替わる新しい起債事業の取組を検討する。				

作成担当者	小松 征矢				
最終評価責任者	大谷 勝己				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	幹線道路整備事業(中大塩)	事業期間	2014 ~ 2018 年度	係内番号	03
担当部署	都市建設部 建設課	建設係		連絡先	506

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	03	道路河川等整備計画	0301	道路改築・改良事業		

予算事業名	幹線道路整備事業(中大塩)	会計コード	01	款	08	項	02	目	03	事業	03
-------	---------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
歩道の波打ち解消と幅員の確保をするために、車道の嵩上げによるセミフラット式歩道の整備を行い、歩行者の安全確保を図ると同時に路面状況の悪い車道を整備する。

現状と背景
(どうして)
現在3ブロック476号線歩道は、マウンドアップ歩道が住宅への乗り入れの影響で波打っていることと、電柱が歩道内に建立されていることから、歩行者の安全な通行が阻害されている。

目的
受益者(誰のために)
3ブロック476号線利用者及び沿線住民
対象(直接働きかける)
沿線の関係者(土地所有者、住民等)
意図(どんな状態にしたいか)
歩行者の安全確保、交通環境の改善

手段・方法
(どうやって)
車道のかさ上げ及び歩道形態の変更を伴う改良工事を行う。住宅団地であることと、バス路線であるため地元区との調整も綿密に行いながら実施する。また、準備段階においては、事前にガス管及び上下水道管等の埋設管の管理者とも調整を行いスムーズに本工事が進められようにする。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	道路改良	改良延長	m	道路改良延長
	2					
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	道路改良	整備率	%	整備済延長/計画整備延長×100	100
	2	電柱移転	移転率	%	移転本数/計画移転本数×100	100
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	財源内訳	事業費等(a)	円	10,465,200	0			
国庫支出金		円	3,740,000					
県支出金		円						
地方債		円	2,700,000					
その他特定財源		円						
活動指標	改良延長	目標	m	1,750				
		実績	m	1,750				
		達成率	%	100.00	-	-	-	
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	
	成果指標	整備率	目標	%	100			
			実績	%	100			
		達成率	%	100.00	-	-	-	
移転率		目標	%	100				
	実績	%	100					
達成率	%	100.00	-	-	-			
備考	2018年度で事業完了							

事務事業名	幹線道路整備事業(中大塩)		事業期間	2014	~	2018	年度	係内番号	03
担当部署	都市建設部	建設課	建設係				連絡先	506	

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果				
	コスト					
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	H26年度からH30年度までの予定で進めてきた本事業が、本年度完了しとなり目標値を達成となった。施工延長1,750mの施工が終了し、歩道内にあった電柱移転も全て完了となった。				
	総合評価	交通安全の目的で、マウンドアップ形式であった歩道を、車道を嵩上げすることでセミフラット形式となった。舗装の打替えも同時の施工し、中大塩地区の幹線道路が整備され、利用者、住民の安全性が図れ、利便性が向上した。				
	課題	なし。				
	改革・改善の方向性(ACCT)	成果やコストの方向性の内容	なし。			
改革・改善の方向性(ACCT)	翌年度方向性	成果 休廃止 コスト 皆減				

作成担当者	小坂 和弘				
最終評価責任者	大谷 勝己				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	幹線道路整備事業（2級8号線）	事業期間	2015 ~ 2020 年度	係内番号	04
担当部署	都市建設部 建設課	建設係		連絡先	506

政策番号	05	基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針								
		実行計画	03	道路河川等整備計画	0301	道路改築・改良事業								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	幹線道路整備事業（2級8号線）				会計コード	01	款	08	項	02	目	03	事業	04
事務事業の概要	市道2級8号線は、県道榎木矢ヶ崎線と諏訪中央病院線を結ぶ路線であるが、一部狭隘道路を解消するためバイパスルートを創設する必要がある。本事業により、狭隘道路の解消とともに中央病院北側の粟沢地区方面からのアクセス性が向上し、安心安全なまちづくりに寄与するものである。													
現状と背景	現状の2級8号線は道路幅員が狭く、生活道路としての機能を果たしていない。また、神之原広田地区ほ場整備事業の中で幹線道路の建設が必要になった。これらの課題を解消するため、2級8号の道路改良工事を行い中央病院へのアクセスを向上させることが必要になった。													
目的	受益者	市道利用者及び沿線住民等												
	対象	沿線の関係者（土地所有者、住民等）												
	意図	生活道路の確保、交通環境の改善、交通事故の防止、および交通の円滑化を図る。												
手段・方法	神之原広田地区ほ場整備事業と本事業を関連させながら、効率的に事業を進める。													
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		1 道路改良	道路改良延長	m	工事施工延長				1,040					
		2 用地買収	用地買収件数	件	用地補償対象件数				32					
	変更履歴	※各年度の施工延長については重複する箇所があるため、完成延長が明確に表示できない。工事進捗率で進行管理を行う。												
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		1 用地取得	用地取得進捗率	%	契約件数／全件数×100				100					
		2 道路改良	道路改良工事進捗率	%	工事施工延長／道路改良工事総延長×100				100					
	変更履歴													

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	91,498,614	180,000,000				
		国庫支出金	円	47,458,000	90,000,000				
		県支出金	円						
		地方債	円	25,800,000	81,000,000				
	その他特定財源	円							
	一般財源	円	18,240,614	9,000,000					
	活動指標	道路改良延長	目標	m	485	637			
			実績		0				
		達成率	%	0.00	-	-	-	-	
		用地買収件数	目標	件	3	3			
			実績		3				
		達成率	%	100.00	-	-	-	-	
	-	目標	-						
		実績							
達成率	%	-	-	-	-	-			
成果指標	用地取得進捗率	目標	%	60	100				
		実績		60					
	達成率	%	100.00	-	-	-	-		
	道路改良工事進捗率	目標	%	100	100				
実績			0						
達成率	%	0.00	-	-	-	-			
備 考									

事務事業名	幹線道路整備事業(2級8号線)		事業期間	2015	~	2020	年度	係内番号	04
担当部署	都市建設部	建設課	建設係					連絡先	506

中 評 価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事 後 評 価 (C H E C K)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果要因～	工事については、県営圃場整備事業の遅れの影響により工事着手が遅くなった為、年度内の完工に至らず繰越となり、目標値対し成果は0%となった。また、用地取得については、予定していた地権者3名の内1名の合意が得られなかったが、他の地権者との契約に至り100%となった。				
	総合評価	年度内完工とはならなかったが、工事を着実に進めることができ、次年度工事につながる基盤ができた。また、用地買取についても数度にわたり粘り強く交渉したことにより、予定していた件数の契約をすることができた。				
	課題	用地買取に対して同意していない地権者3名の説得が課題となる。この交渉の次第により全線供用開始時期が遅れていくことになる。				
改革・改善の方向性(ACIT)	成果 コスト	現状維持 縮小				
改善の方向性の内容	改革 コスト	事業費が減少することによりコストは縮小する。東海大諏訪高校グラウンド横から中央病院までの神之原方面の区間については、令和2年度供用開始に向け、工程管理を徹底し工事を着実に進めていきたい。なお、現状で不足している盛土に使用する土を極力低コストで確保することが事業費の抑制につながる為、早急に確保の手段を検討していく。また、用地取得が完了していない粟沢方面については、早期開通ができるよう、引き続き同意を得られていない地権者の説得及び交渉を行っていく。				

作成担当者	荒井 憲一				
最終評価責任者	大谷 勝己				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	橋梁修繕事業	事業期間	2013 ~ 2022 年度	係内番号	05
担当部署	都市建設部 建設課	建設係		連絡先	506

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	03	道路河川等整備計画	0303	橋梁整備事業		

予 算 事 業 名 橋梁修繕事業 会計コード 01 款 08 項 02 目 03 事業 05

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
今後老朽化する茅野市の道路橋（以下「橋梁」という。）の増大に対応するため、長寿命化修繕計画に従って事後的な修繕から予防的な修繕へと政策転換をしている。重要度の高い橋梁から、修繕工事のための調査を行い工事を実施する。

現 状 と 背 景
(どうして)
橋梁の高齢化と劣化が急速に進んでいる。

目 的
対 象
受 益 者
(誰のために)
橋梁を渡るすべての人、橋梁の下を通る車両等。
対 象
(直接働きかける)
茅野市が管理する橋梁
意 図
(どんな状態にしたいか)
延命化を図るため橋梁の損傷を改善する。

手 段 ・ 方 法
(どうやって)
橋梁毎に、損傷や重要度に見合った修繕工事を実施する。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	修繕橋梁数（累計）	修繕橋梁数	橋	修繕橋梁数（累計）	25
		2					
		3					
変更履歴		2022年の最終目標を25橋とし、各年度までの累計を管理する。					

評価指標の作成	成果指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	橋梁補修	補修橋梁率	%	補修済橋梁数／補修必要橋梁数×100	100
		2					
		変更履歴					

実 施 状 況 (D O 備 考)	項 目		単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	事業費等(a)		円	31,730,400	85,000,000			
	財 源 内 訳	国庫支出金	円	17,451,000	46,750,000			
		県支出金	円					
		地方債	円	12,800,000	34,400,000			
		その他特定財源	円					
		一般財源	円	1,479,400	3,850,000			
	活 動 指 標	修繕橋梁数	目標	橋	20	21		
			実績	橋	15			
			達成率	%	75.00	-	-	-
		-	目標	-				
			実績	-				
			達成率	%	-	-	-	-
	成 果 指 標	補修橋梁率	目標	%	84	88		
			実績	%	84			
達成率			%	100.00	-	-	-	
-		目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	

事務事業名	橋梁修繕事業		事業期間	2013	～	2022	年度	係内番号	05
担当部署	都市建設部	建設課	建設係					連絡先	506

事業 評価 価値	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果				
	コスト					
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	～成果変異動指要標因分～析	本年度までの目標は20橋であったが、NEXCOとの交通規制協議と、工事の契約事務に時間を要し、中央自動車道に掛かる5橋が完成できなかった。この工事については次年度へ繰越したため、修繕橋梁数の達成率は75%となった。					
	総合評価	本年度は宮川橋の1橋が完成し、市街地と諏訪を結ぶ市道1級幹線の整備を行うことができ、宮川地区の市民や通行者の安全性が確保できた。					
	課題	2019年度に予定している公園大橋は、茅野市の主要幹線になるため、工事中の交通規制が課題となる。通行車両の関係者の協議や迂回路の工事との調整、市民への広報など、各関係者との調整が必要である。					
	改革・改善の方向性(ACIT)策び内容	コストについてはR2年の橋梁の規模が小さくなることから縮小となる。 2019年度に繰越をした5橋については工事監督を行い、安全な施工ができるように進める。 公園大橋については、交通事業者、警察署、消防署などと協議を行い、円滑な交通規制ができるように調整を行う。また、この橋を頻りに利用している事業者や、周辺施設、地元区に理解を求め、協力の依頼を行う。広報については、市の各広報宣伝を利用すること、現場周辺に工事予定看板の設置を行い、周知していきたい。					

作成担当者	小阪 和弘					
最終評価責任者	大谷 勝己					
最終評価年月日	2019年5月17日					

事務事業名	道路橋法定点検委託事業	事業期間	2014 ~	年度	係内番号	06
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	連絡先	506	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	03	道路河川等整備計画	0303	橋梁整備事業		

予算事業名	道路橋法定点検委託事業	会計コード	01	款	08	項	02	目	03	事業	06
-------	-------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
道路法に基づき、トンネル、橋等について5年に1回の近接目視による点検等を規定する道路法施行規則の一部を改正する省令が平成26年3月31日公布され、平成26年7月1日より施行された。この改正により、茅野市の管理橋梁504橋について、5年以内に全て点検を行い、その後、5年毎に定期点検することが義務化された。

現状と背景
(どうして)
橋梁の高齢化と劣化が急速に進んでいる。橋梁の定期点検を行い、橋梁の最新の状態を把握するとともに、次回の定期点検までの措置の必要性の判断を行う上で必要な情報を得るために行う。

目的
受益者
(誰のために)
橋梁を渡る人、橋梁の下を通る車両等。
対象
(直接働きかける)
茅野市管理する橋
意図
(どんな状態にしたいか)
損傷の度合いを調べ、損傷の修繕方法・時期を明らかにする。

手段・方法
(どうやって)
「道路橋定期点検要領」(平成26年6月 国土交通省道路局)に従い、橋梁の部材ごとに近接目視や打音調査等を行う。点検結果は要領に指定されている様式により取りまとめを行う。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	橋梁点検数(累計)	橋梁点検数(累計)	橋	橋梁点検数(累計)	504
	2						
	3						
	変更履歴						
成果指標	成果・効果は何?		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	計画期間内の橋梁点検	計画期間内点検橋梁率	%	点検済橋梁数/全体橋梁数×100	100	
	2						
	変更履歴						

実施状況	項目		単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	財源内訳	事業費等(a)		円	27,466,400	41,700,000		
国庫支出金		円	14,941,000	22,930,000				
県支出金		円						
地方債		円						
その他特定財源		円						
活動指標	一般財源		円	12,525,400	18,770,000			
	橋梁点検数(累計)	目標	橋	504	86			
		実績	橋	504				
		達成率	%	100.00	-	-	-	-
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-
	成果指標	計画期間内点検橋梁率	目標	%	100	100		
			実績	%	100			
			達成率	%	100.00	-	-	-
-		目標	-					
	実績	-						
	達成率	%	-	-	-	-		

備考 ※道路法の法律により5年に1回の点検が義務付けられているため、2019年度から2回目の点検が開始となった。

事務事業名	道路橋法定点検委託事業	事業期間	2014 ~	年度	係内番号	06
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	連絡先	506	

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中 評 価	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化				
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)				
	翌年度方向性				
	成果 コスト				
課長評価日					

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
事 後 評 価 (C H E C K)	～成果 変異 動指 要標 因分 ～析	本業務は、平成26年～平成30年の5年間で茅野市にある橋梁(504橋)を点検する事業である。今年度は計画数が57橋に対し、実際に点検した数が57橋と、目標値に対し100%の達成が得られた。また、5年で504橋の点検計画に対し、504橋点検ができ、目標値に対し100%の達成が得られた。				
	総合評価 課題	点検を行うことにより、市内の橋梁がどういった状態であるのかわかり、健全度を測定することができた。それにより、補修の必要がある橋梁の把握ができ、今後の修繕の計画を立てることが出来るようになった。 第2期の点検方法について、第1期の結果をどのように反映させ、進める必要があるか検討が必要である。第1期の点検結果により修繕工事を行い、安全性が向上した橋梁など、コスト削減を意識した計画が必要である。				
改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (A C T)	翌年度方向性	現状維持 縮小				
	改革・改善の方向性の内容	R元年度に対してR2年度は橋梁数が少ないため、事業費は縮小となる。5年周期で行われる点検業務において、第1期の点検結果がある中で点検する橋梁の優先順位の選択、修繕工事を行った橋梁のコストを考慮した点検方法の検討が必要となる。				

作成担当者	小松 征矢				
最終評価責任者	大谷 勝己				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	生活道路整備事業	事業期間	～	年度	係内番号	01
担当部署	都市建設部	建設課	建設係	連絡先	506	

政策番号	05	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0202	交通施設整備の方針		
			実行計画	03	道路河川等整備計画	0301	道路改築・改良事業		

予算事業名	生活道路整備事業	会計コード	01	款	08	項	02	目	03	事業	01
-------	----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 市道を改良することにより、生活道路の確保、交通環境の改善を行い、もって交通事故の防止を図り、あわせて交通の円滑化に資することを目的とする。

現状と背景
 (どうして)
 道路幅員が狭く、生活道路としての機能を果たしていない。円滑な交通が確保されていない。道路ストック及び付属道路施設等が老朽化してきている。

目的
 受益者 (誰のために)
 市道利用者及び沿線住民
 対象 (直接働きかける)
 沿線の関係者(土地所有者、住民等)
 意図 (どんな状態にしたいか)
 生活道路の確保、交通環境の改善、交通事故の防止、及び交通の円滑化を図る。

手段・方法
 (どうやって)
 道路改良のみならず、道路側溝(水路)、舗装、法面等道路に付随する施設も整備していく。地元区要望書に対する対応についても、きめ細やかな対応ができるように努める。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	年度内工事実施率	年度内工事実施率	%	年度内工事実施数/年度内工事予定数×100	100
	2						
	3						
	変更履歴						
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
	1	工事整備率	年度内工事整備率	%	年度内整備済延長/年度内計画整備延長×100	100	
	2						
	変更履歴						

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	財源内訳	事業費等(a)	円	357,249,323	353,957,000			
国庫支出金		円						
県支出金		円						
地方債		円	270,000,000	297,000,000				
その他特定財源		円						
活動指標	年度内工事実施率	目標	100	100				
		実績	100					
		達成率	100.00	-	-	-	-	
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	-	-	-	-	-	
	-	目標	-					
		実績	-					
		達成率	-	-	-	-	-	
	成果指標	年度内工事整備率	目標	100	100			
			実績	100				
		達成率	100.00	-	-	-	-	
-		目標	-					
	実績	-						
達成率	-	-	-	-	-			
備考								

事務事業名	生活道路整備事業	事業期間	~	年度		係内番号	01
担当部署	都市建設部	建設課		建設係		連絡先	506

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果				
	コスト					
課長評価日						

事業 後 評価 価値 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果 要因分析	この業務は各区、自治会から提出される要望書を基に実施している。 本年度については改修延長10km、工事件数200件を行い、目標値に対し100%の達成が得られた。				
	総合評価	区の要望事項であった工事について実施したことにより、区の満足度向上を図れ、市民の要望であるインフラ整備により、安全性の確保、生活環境の改善、快適性の向上を図ることができた。				
	課題	本年度の工事箇所は平成28年～平成30年度に要望された内容も含まれ、古いものは3年遡って対応している。要望された事項に対し当年度又は翌年度に対応できるように早急な対応が求められる。				
	改革・改善の方向性の内容	現状維持 現状維持				
改革・改善の方向性の内容	年間の要望件数は約200件であることから、目標値については、改修延長10km、工事件数200件で進めていきたい。但し、第2期工事になることから事業規模が縮小されるため、コストについては縮小となる。 当年度又は翌年度に対応できるように、古い要望事項を整理し、計画的に工事を進める。					

作成担当者	荒井 憲一				
最終評価責任者	大谷 勝己				
最終評価年月日	2019年5月17日				